

西 上 免 遺 跡

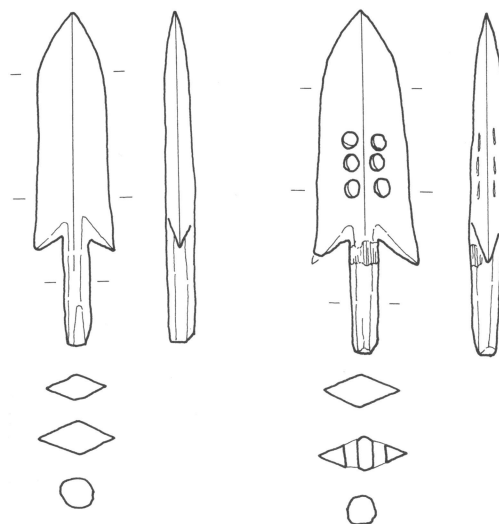
調査の経緯 尾西市開明に所在する西上免遺跡は、平成2年度から調査を継続的に実施している。本年度は東海北陸自動車道建設予定地内において、平成6年(1994)9月から平成7年(1995)3月まで4700㎡を対象にA・Bの2つの調査区を設定して発掘調査を実施した。

調査の概要 B区北西側では西上免遺跡の主要遺跡群が展開する微高地を確認することができた。

検出できた主要遺構は、時期的に4つに大きく区分して考えることができる。まず弥生時代中期を中心とする遺構で、微高地縁部に土坑群が数基存在し、石斧・石鏃類も散在する。次に古墳時代初頭のもので、微高地上にはS D500・S D501のような墳丘墓(廻間Ⅱ式期)が展開し、さらにA区北側には水田(廻間Ⅰ～Ⅱ式期)の存在を確認することができた。さらに特筆できる遺物としては銅鏃2点がある。その内1点は多孔銅鏃で、微高地南端部で発見することができた。さてもっと多くの遺構が所属するのが鎌倉時代を中心にする時期で、微高地縁部に掘削された溝S D09や小溝群と土壇群で構成される。これらは微高地に方向性を合わせるように配置されたものが多い。特に中世の方形土壇は、約80基近く検出でき、規模・方向性・場所等の要素によって時期的な変遷を推測できる。最後に室町時代末期を中心にした時期のもので、微高地端部に掘削された溝S D10・S D11・S D02やB区中央部に展開する大型土壇群(S K62・63ほか)、不定形な大型土坑S X02が所属する。

今回の調査によって微高地の南端部の状況が明らかになり、微高地付近に展開する鎌倉時代の集落域と古墳時代では墳丘墓を中心とする墓域と水田域の存在を明らかにすることができた。

(赤塚次郎)



西上免遺跡出土銅鏃(1/1)

